

資 料

平成 18 年度事業報告

財団法人日本セーリング連盟

平成18年度 事業報告

財団法人 日本セーリング連盟

<全 般>

平成18年度の活動を振り返り、全般のトピックスを下記に記します。

- 1.オリーブ'ック招致に関してJOCの投票で東京に決まり、JSAFもオリーブ'ック招致委員会を設けて2016年の招致に向けて対応していくことになりました。
- 2.OP選手権大会でのRRS69.2に関連する最高審判委員会からの提言に基づき理事会で審議し、関係者および関係団体に勧告と要請が提出されました。その後、日本スポー仲裁機構に申立てがあり最終的に却下となりました。とくにジュニアに対するスポーツマンシップとシーマンシップの指導について大きな課題となりました。
- 3.H19・20年度全国理事および監事の選挙において、1999年の両者の合併以来懸案でしたJ系・N系の枠をはずした選挙を実施しました。

各委員会の活動としてのトピックスとしては、

- 4.外洋艇の計測で世界的に普及しているIRC計測方式を導入いたしました。
- 5.ナショナルトレーニングセンターに関して検討し、和歌山を候補地といたしました。
- 6.指定管理者制度の導入に向けて、連絡協議会を開催し活発な意見交換を行いました。
- 7.BG財団支援により全国10カ所の海洋センターで子供セーリング体験を実施しました。
- 8.環境キャンペーンとして、全日本選手権などへの支援やエコバッグの配布を行いました。
- 9.本年2月ISAFより講師を招き、福岡でアジア地域のIJセミナーを開催いたしました。
- 10.ドーハで開催されたアジア大会で金1銀4銅1のメダルを獲得することができました。
- 11.広報活動では、広報とオリ特委員会で報道機関に対するマスコミ懇談会を開催しました。
- 12.世界女性スポーツ会議が熊本で開催されJSAFからも参加いたしました。

平成17年度に検討されました財政改革については、残念ですが十分な対応ができませんでした。JSAFメンバーや収入でますます厳しい財政状況となっています。平成19年度にプロジェクト体制を設けて、会員増強と財政健全化に向けた取り組みを行っていく予定です。また本年はISAF 100周年およびJSAF 75周年になります。9月1、2日に世界の海に船を浮かべる”Sail the World”計画も進めています。JSAF 75周年の伝統と文化の重みを感じつつ、JSAFのメンバーとともに新たな時代に対応したJSAFを構築したいと考えています。

◆総務委員会

(委員長：中山明 副：浪川宏・安藤淳)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1、加盟団体と特別加盟団体の義務と権利内容の検討	通 期		1、特別加盟団体の加盟承認は1団体（日本アクセスクラス協会） 休眠届は2団体（日本エンタープライズ協会・日本B14協会）であった。
	通 期		2、RRS使用の権利、レース主催権に関する基本的考え方の改正案が レース委員会から提示され、報告書の提出が26件あった。
2、諸規程の整備	11 月		1、役員選出の全国区理事及び監事のグループ枠選出を廃止して一本化を図り、関係規程内容を改訂した。
	1 月		2、水域規模格差の是正による均衡発展を目指して水域構成団体を見直し、 ディンギー系は関東から中部へ1団体を移動。クルーザー系は中国四国 以外の4水域の再編を実施し、水域理事選出を行なった。
	2 月		3、規律と自立性に富んだ組織運営をめざして連盟懲戒規程を制定した。 又、寄附行為の顧問定数増加の改正を行なった。
3、業務合理化の推進	通 期		4、連盟表彰規程に優秀指導者賞を新設すると共に功労賞基準の具体的明示の改正を行なった。
			5、前期提案の加盟団体名称の是正に対応して変更届が1件あった。 (外洋湘南)
4、表彰小委員会の活動	通 期		1、メンバー登録の円滑推進の為に処理要員の臨時対応を行った。
	6 月 11 月		2、連盟資料をデータベース化するための資料収集をはじめた。 1、6月評議員会の席上、功労賞2名、優秀競技者賞2名の定期表彰を実施した。 2、国民体育大会功労者特別表彰に1名（西田昭二氏）を推薦し表彰された。 3、セーリング活動を通して社会貢献された森岡忠美氏の叙勲申請を行った。 4、表彰小委員会を解消し、次年度から総務委員会内の選任担当者で遂行する。

<備考:反省点等>

役員選出の全国区選出枠一本化、水域構成の再編など、組織の活性化と将来の発展基盤の再編に着手して制度上の完全統合化を一步前進させた。加盟団体と特別加盟団体の義務と権利内容の基本的で重たい問題は、関連する事項が多く十分な検討ができていない。次期以降の重要課題として鋭意取り組む必要がある。

◆会計委員会

(委員長：鈴木保夫)

予算執行の適正な管理に努めたが、収入が予算通りとはならず、第2次補正予算(案)を作成した。

19年度の予算(案)を作成した。

◆国際委員会

(委員長：戸張房子 副：柴沼克己)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. 2006世界女性スポーツ会議 くまもと	5月11～14日	熊本	2006世界女性スポーツ会議くまもと 世界74カ国・地域から約700名が参加。女性とスポーツ界をとりまく様々な課題や、スポーツを通じた女性の地位向上などを論議。世界75の国・地域から約700名が参加。報告書をISAFのWomen's Forumに提出。ISAFでは今後も続けてこの会議(4年に1回開催)に参加・協力することを確認。
2. ISAFミッドイヤーミーティング	5月4～7日	ベルリン(ドイツ)	① 大谷たかを1名が出席 ② 2008北京から採用されるオリンピック・フォーマットについて論議 ③ IOCの勧告「各スポーツ連盟の意志決定機関における女性委員の割合を2割以上とすること」にいかんして対応するかを協議。 ④ 2007年はISAF創設100周年にあたるので、9月第一週に世界中でセーリングの催事を行ってもらようMNAに協力を要請する。 その他詳細は既に報告書を提出済
3. ISAF年次総会 ORC年次総会	11月4～12日	ヘルシンキ (フィンランド)	① 大谷たかを、柴沼克己、小林昇(ORCコンGRESS)が出席。 ② IOCがオリンピック競技の見直しをすすめていることから、セーリングは特に危機感をもってメディア対策を積極的に改善していく必要性が強調された。 ③ ORC会議後にフィンチ会長と小林委員が話し合いをし、ORCANの現状を説明。ORCも早期に解決を望んでいる様子であった。 その他詳細は既に報告書を提出済
4. IRCレーティング導入 (外洋統括)	4月	国内各地	① 世界的に普及している外洋艇のインターナショナルレーティングであるIRCの導入を4月より試験的に開始 関西ヨットクラブ、外洋三浦でレースを開催、外洋統括委員会にIRC委員会を設け計測レーティングの発行が行える体制を構築、2007年3月には約100艇が証書を取得
5. IRC年次総会・計測講習会	10月14日	ロンドン(英国)	① IRC年次総会に鈴木一行と角が出席。日本での導入について説明するとともに海外各国と情報交換を行った。 ② 15～16日のIRCメジャラーズ会議には角氏が出席。計測の実際と連携を行う関係作りをおこなった。外洋系の海外との交流の必要性を感じた
6. ASAF総会	12月10日	ドーハ(カタール)	① 大谷たかをが出席(アジア大会のサポートで現地滞在中) 2009アジア・セーリング・チャンピオンシップ、2010アジア大会開催の中国から現状報告。会計報告など。
その他	2月		① JSAF、ルール委員会が福岡で開催したインターナショナル・ジャッジセミナーに関して、ISAFとの連絡、各国への参加呼びかけなどで協力。

◆広報委員会

(委員長：大山俊哉 副：柳澤康信)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. 「J-SAILING」の編集・発行	6回	J S A F	●昨年度、改訂した「J-SAILING」を年6回発行した。 ●引き続き、各号32ページ、全ページカラーした。 ●引き続き、広報委員会にて自主編集とした。 ●発送を「宅配方式」に変更し、メンバーの配布物の同梱も可能にした。
2. ホームページの充実	通年	J A S F	●ホームページの充実を図り、会員への情報提供・交流の場として拡充した。 ●JSAFとして必要な情報と、広報的に必要な情報の充実を図った。
3. 報道機関に対する広報対応	通年	J S A F	●報道機関の「セリング担当リスト」を作成し活用をした。 ●報道機関に対し、「マスコミ懇談会」をオリ特委員会と開催し、北京オリンピックとセーリングの啓蒙を図った。
4. その他の広報活動	10月/7日	兵庫/東京	●兵庫国体において、報道部にてマスコミ対応と会場テレビの放映を行った。 ●「JSAFパーティー」の実施・運営を行った。

<備考:反省点等>

- 次年度は、「J-SAILING」を、ビーチマリーナ協会の協力を得て、マリーナ・ハーバーに置いてもらい、会員でない一般セーラーへの啓蒙を図る。
- 北京オリンピックに向け、国粋・出場選手決定等の情報を、オリ特委員会と連携して、報道機関に迅速に伝える。
- 好評であったので「マスコミ懇談会」を適宜、開催して行きたい。

◆事業開発委員会

(委員長：平賀威 副：桑原啓三)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. 委託販売制度の拡大	年間を通して		各加盟団体、特別加盟団体、水域のクラブ等への委託販売についてはごく一部の団体にとどまっている。マリーナショップ、業者への委託の体制が確立されていない。
2. ショップの出店	年間を通して	現地	兵庫国体、東京国際ボートショウ会場、関東ヨットマンズクラブパーティ、での販売はほぼ計画通り実行できた。各団体主催のレースイベントの会場でのショップ販売は実行できなかった。 主な販売実績：セーラーズパーティ (44千円)、兵庫国体 (671千円)、関東YC (96千円)、東京国際ボートショウ (230千円)
3. JSAFロゴ入り商品の開発	年間を通して		在庫の減額に努めたため、新規開発商品は、マリンショルダーバッグのみ、在庫商品の補充発注にとどまった。
4. ロイヤリティビジネスの検討	年間を通して		検討のみで、実績をあげるに至っていない。
5. J-セーリングとのジョイントによるグッズの販売	年間を通して		事業開発委員会の活動内容、2007年カレンダーの紹介をJ-Sailingに掲載したに留まっている。来年度の課題にしたい。
6. ネットショッピングの研究	年間を通して		出来ていない
7. イベントの企画、開催	年間を通して	現地	出来ていない
8. 2007年版カレンダーの製作	年間を通して	舵社	前年比700部減の800部製作し、各団体に販売委託したが早々に売切れとなり50部追加発注した。一部の団体からクレームを受けた。小型のオリジナルカレンダー開発を検討する。売上：839千円
8. 滞留在庫の減額	年間を通して		H18年期末3,811千円、H17年期末4,139千円、328千円の減額ができた。 エンサイン大 (174千円)、エンサイン小 (887千円)、バージ (ベルクロ) (274千円)、バージ (ロープ) (62千円)、アタッシュケース (462千円) 等が長期滞留商品。
<備考：反省点等>			
(収入)		(支出)	
カレンダー収入	839千円	カレンダー製作費	882千円
グッズの販売	2,118千円	グッズの仕入	1,088千円
		旅費交通費	105千円 (国体、ボートショウ)
		雑支出	149千円 (ボートショウ出展、国体T-シャツデザイン、駐車場代)
合計	2,957千円	合計	2,224千円
差引収支(黒字)		733千円	

◆ルール委員会

(委員長：川北 達也 副：大村 雅一・日下部大蔵)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. ルール関連資料邦訳発行	7月	—	CaseBook邦訳版発行(舵社より)単年度500冊弱販売済 ISAF規定の邦訳版発行 (JSAF Web掲載)
2. ルール関連書邦訳	—	—	ジャッジマニュアル/アンパイアマニュアルともに18年度中の完成できず、19年度に邦訳完了し、発行予定。
3. 国内IU/IJ育成支援、アジア地区ジャッジアンパイア養成支援	2月	福岡	ISAFから講師を招聘してISAF IJセミナーを開催した。アジアからの受講者が2名 (中国、ミャンマー)、国内で14名。国内受講者のうち5名が合格。新しいIJ候補を大量に確保でき、JSAFの高いジャッジレベルを示せた。
4. 各種ルール講習会開催	11月/2月/3月	秋田/東京/大分	・A級ナショナルジャッジ認定講習会 (2日間) を3箇所にて開催。合計で26名が受講し、12名が合格。国体開催前に各水域でのジャッジレベル向上に貢献できた。
	1月	東京	・A級ジャッジセミナーを2日間開催。全国から37名の受講者が集まり、規則42のジャッジポイントから、審問手順や事実認定の記載方法に至るまで実践に役立つ公衆でスキルアップを実現できた。
5. JSAF主催大会へのジャッジ派遣	10月/9月/ 10月/2月	兵庫/秋田/ 神奈川/神奈川	国体 (兵庫)、国体リハーサル大会 (秋田)、オリンピックウィーク (江ノ島)、ナショナルチーム選考 (江ノ島) に対して地元水域との協業を実施できるような成員配分でジャッジを派遣し、全国のレベル向上に貢献した。オリンピックウィークは、インターナショナルクラスをインターナショナルジュリーで、その他のクラスをプロテスト委員会で実施。
6. JSAF-Webへのルール情報展開	都度	—	各種情報の掲載および公示を実施。レイアウトを改定して会員が更に使いやすいようにすることを19年度に向けて検討。
7. B級ナショナルジャッジ認定業務	都度	東京	各加盟団体から送付されたB級ジャッジ講習会&試験結果に基づき、認定業務および認定証発行作業を実施。

◆ワンデザインクラス計測委員会 (委員長代行：末木創造 副：恒川信好)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. ODC計測委員会の組織化	平成18年 5月	愛知県蒲郡市	470、スナイプ、FJ、OP、レーザー、テザー、シーホッパー、 ウィンド等各クラス計測委員長がODC計測委員会の構成メンバーとなり、 第1回定例会議を開催した。各クラス横の繋がりが少なく、それぞれ個別 に計測業務を行って来たが、ODC計測委員会に加わり、計測に対する 共通意識が芽生えたようだ。
	3月	東京夢の島マリナ	第2回定例会議を開催した。
2. ISAFインターナショナル・リザー (IM) 候補者推薦についての制度化	5月		委員会内にIM候補者推薦委員会を設置するとともに、IM候補者推薦 基準を策定した。
3. JSAF公式計測員規程の策定	11月		MNAとしてJSAFが行わなければならなかった各クラスの公式計測員の承認・ 認定について、この度漸く制度化がなり、19年度より施行されることに なった。また、公式計測員規程施行に伴い、ODC計測委員会の業務処理 要領を策定した。
4. ERS既受講者 (2002年、 約150名) への講習会受講修了証 の発行	平成19年 3月		懸案事項であった2002年に開催されたJSAF主催のERS講習会 受講者に対する受講修了証の発行を行った。
<p><備考:反省点等> JSAF公式計測員制度が19年度より始まるが、各クラス協会の計測事情を全て把握しているわけではない。これからも各クラス協会と連絡を 密にとりながら徐々に各クラス協会に相応した計測制度を築き上げていきたいと思う。</p>			

◆レース委員会 (委員長：名方俊介 副：市原恭夫・大原博実)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. レースオフィサー認定、 および更新講習会の開催	平成18年4月 ～ 平成19年3月	関東 (東京)	① 平成19年2月、東京都において、ナショナル・レース・オフィサー認定 (試験) および更新講習会を開催した。(受験者2名、更新者1名) ② 関東 (東京) において、エリア・レース・オフィサー認定講習会を開催した。 (受験者4名、更新者1名) ③ 関東 (東京) において、クラブ・レース・オフィサー認定講習会を開催した。 (受講者9名、内認定者7名) ④ 上記の結果、レース・オフィサー資格取得者数は、 NRO113名 (内9名未更新)、ARO332名 (内4名未更新)、CRO75名である (平成19年3月5日現在・新規合格者は含まず)。
2. レース・オフィサー・トレーニング・キット (レベル1および2)の充実			NRO・ARO認定講習会における教材として用いるレース・オフィサー・トレーニング・キット (レベル1および2)を充実させた。
3. 公認等審査部会の運用			昨年度設置したレース・マネージメント小委員長を部会長とする公認等審査部会を 運用して、実施される大会の組織やレース公示に対する指導・支援を充実 させた。
4. RO連絡網の整備			レース・オフィサー連絡網を用いて、レース運営に関する情報を適時に発信し、 全国のレース運営の平準化と知識向上の一助として活用している。
5. レース・マネージメント・マニュアルの翻訳			ISAFレース・マネージメント・マニュアルを翻訳し、すべての大会運営担当者 およびレース委員が活用できるようにレース委員会ホームページ上に掲載した。
6. レース・オフィサー規定の改正			レース・オフィサー規定を改正し、すべてのレース・オフィサー (NRO、AROおよびCRO) の氏名をレース委員会ホームページ上に掲載し、大会運営担当者に対する便を 図るとともに、レース・オフィサー起用システムの一助とした。
7. その他			兵庫国体、秋田国体リハーサル大会、ユース・チャンピオンシップ、オリンピック・ウィーク、 ナショナルチーム選考レース、全日本チームレース等の支援を行った。
<p><備考:反省点等> 平成16年4月1日より全日本選手権大会等、およびその予選会にはレース・オフィサー設置の義務が発行している。 今後も引き続き、レース・オフィサー制度の維持管理、競技大会へのRO起用システム、レース・マネージメントの標準化などについての具体的方策を立案、実施する。</p>			

◆競技力向上委員会

(委員長：箱守康之

副：青山義弘)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. ジュニア・ユース競技力向上事業			
(1) 海外派遣事業			
(a) 2006年度ワールドユース選手権大会	7/13～21	英国 (ロンドン)	2005年(平成17年)と比較し、結果が低迷下降傾向となった。 日本から420級男女×1、レーザー×1、レーザーラジアル×1及びBRS-X男子1及び監督、コーチの総勢9名で参加 420級男子(35カ国) 10位 飯東潮吹/古谷信玄(福岡第一高校) 420級女子(24カ国) 16位 高橋友海/津々谷加依(三ヶ日高校) レーザー男子(44ヶ国) 37位 湯浅 直人(神奈川ユースセーリングクラブ) レーザーラジアル女子(42ヶ国) 30位 鬼塚 弥那美(玄海セーリングクラブ) RSX級(29ヶ国) 22位 高橋 良典(福岡西陵高校)
(b) 470ジュニアワールド選手権大会	7/1～9	ドイツ (トラブミュンデ)	日本から国内選考の上位チームとし男子3チームを派遣(コーチ2名) 121隻中 21位 宮川 英之/吉見 亮平(第一経済大学) 40位 市野 直毅/佐藤 翔(関西学院大学) 121位 川添 正浩/坂上 佑真(江ノ島ジュニアヨットクラブ) 川添/坂上組は、クルーの怪我の為、レース参加できず。
(2) 国内強化事業			
(a) ワールドユース派遣候補選手国内合宿及び代表最終選考会	4/30～5/3	佐賀県ヨットハーバー	ユースワールド国内選考会の開催 2007年度は、経費削減を踏まえJOCジュニアオリンピックと並行して開催する。
(b) 470ジュニアワールド西日本選考会 々 東日本選考会	6/3～6/4 6/11～6/12	兵庫県西宮 神奈川県葉山	470ジュニアワールド日本代表選考会を東西で開催
(c) 西日本地区強化合宿	2007年3/8～3/12	佐賀県ヨットハーバー	NT選手を招聘した西日本エリア選手の強化合宿の実施
(d) 東日本地区強化合宿	2007年3/20～3/23	静岡県立三ヶ日青年の家	東日本エリア選手の強化合宿の実施
(3) 国内大会及びクリニックの開催			
(a) JSAFオリンピックウィーク	10/18～22	江ノ島	オリンピック種目と合わせユース種目(420/FJ/レーザー/レーザラジアル/シネッパ-及びSR級)で大会を開催するが、10月は国体の時期や伊弉が近いことで参加が減少傾向今後、他大会日程を考慮し多くの参加者を集める工夫が必要。
(b) ジュニアオリンピックカップ	9/16～18	佐賀県ヨットハーバー	ユース選手対象の大会として定着するが、西日本エリアの選手が中心となってしまう傾向。開催時期を次回は、5月連休に開催する。
(4) ジュニア・ユース有望選手発掘事業(ゴールドプランの推進)	2006年4月～2007年3月	全国各地	
(a) 有望選手データベースの整備(全国対象)			ユース候補選手の年度別データ登録及びその後の実績、成績による継続的な時系列管理体制を行う。
2. インターナショナルカテゴリーの推進			
(a) 国際艇種での合宿	2007年3月	唐津/浜名湖	ユースワールドを念頭においた強化合宿での29er級乗船機会の提供
3. 指導者マニュアルの完成に伴う指導体制づくり			
(a) 指導者講習会の実施	9/20～21	浜名湖	指導委員会と連携した指導者講習会の開催(18名参加)
4. オリンピックウィークの開催	10/18～22	江ノ島	アジア地域を含めた国際大会に発展することを最終目標とするが、受入れを含め資金的、組織体制が出来ない限り難しい課題である。
5. 医事・科学委員会と連携した医科学サポートの実施			
(a) ジュニア・ユースに対するサポート		唐津/浜名湖	ユース合宿での医科学サポート、栄養サポート及びNT強化合宿でのフィッテネス サポート、トレーニングサポートを実施する。
(b) アンチドーピング活動	10/22、3/21	江ノ島/浜名湖	ユース選手の競技外ドーピング検査の実施

<備考:反省点等>

国内大会、強化合宿及び海外遠征等、行事スケジュールに追われ、一貫指導システムのための選手、指導者マニュアル等がまだ未完成である。また次世代を担う選手と現NT選手との技術及び総合的能力差が大きいことから、この差を地じめるシステムが必要である。

◆指導者委員会

(委員長：棚橋善克 副：小山泰彦・斉藤威)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
バッジテストの実施	通年	全国 (加盟団体)	認定実績 70団体 1,231人 改革を進め、受験者数の増加を図る。
バッジテストのありかた検討	2月	東京夢の島マリーナ	バッジテストの改良に向け、各水域、県連からの委員による新バッジテスト検討小委員会を開催した。(委員15人。講師・オブザーバー・事務局8人出席) バッジテスト開発時の実務担当者を招き、スタート時の現状、目的、その後の歴史などの確認と共に、今後の可能性などを話し合った。同時に、このシステムがうまく運用されている団体からの意見なども聞き、出来るだけ多くの情報を収集した。次年度も引き続き小委員会を開催し検討を続ける。
教育機関における指導員の養成	通年		鹿屋体育大、日本海技専門校とも事業を実施しなかった。
アシスタント指導員の認定	12月、2月	岡山、神奈川	日本海技専門校の受講生はなかった。牛窓、横浜で指導員養成と同時に講習会を開催し、岡山8人、神奈川10人認定した。
公認指導員の養成 (専門科目講習会の開催)	12月、2月	岡山、神奈川	平成20年度からは、国体監督の全員が公認指導者でなければならなくなったこともあり、岡山21人、神奈川25人の多くの参加が得られた。次年度も大分、北海道で実施する。
指導者全国会議	2月	東京都夢の島マリーナ	28都道府県35人、0外洋、9団体10人とJSAF20人、計65人の参加。年々参加団体、人数が減っており、次年度からは、講習内容と運営に関し、新たな工夫を加えていきたい。
講習会講師研修会	3月	静岡県浜松市三ヶ日	ユースのナショナルチームのコーチングから学ぶこととし、全国からユースの指導者を中心に、講習会を開催した。次年度もジュニア、ユース一貫指導のための講習会として開催する。

<備考:反省点等>

■バッジテストについては、小委員会での検討結果をふまえ、現制度のシステムや学科・実技試験などについて検討を重ねる。

■新たな制度のもとで、公認指導員の養成 (特にコーチ、上級コーチ) と認定を進めていく。

◆レディース委員会

(委員長：倭千鶴子 副：長田美香子・松原宏之)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. 「2006世界女性スポーツ会議 くまもと」	平成18年5月11日 ～14日	熊本市ホテル日航 (メイン会場)	JSAFレディース委員会より4名参加「女性とスポーツ」という課題を推進していくためのテーマがメインに討議され大変勉強になる会議でした。
2. 「エンジョイセーリングデイ」体験	平成18年7月9日	神奈川県葉山町 葉山マリーナ	未経験者を対象に募集し、セーリングの楽しさ等経験して頂き普及に努める。このイベントを何回か経験した結果、レディース委員会のみならずJSAF全体で普及を考える必要があるのではと実感いたしました。
3. 第62回国民体育大会セーリング競技 リハーサル大会「チャイルドルーム」	平成18年9月15日 ～18日	秋田県男鹿市 (セーリング会場)	実行委員会のご協力により設置場所、施設等の配慮良好でした。
4. 第61回国民体育大会セーリング競技 のじぎく国体「チャイルドルーム」	平成18年10月5日 ～9日	兵庫県西宮市 新西宮ヨットハーバー (セーリング会場)	設置場所に多少問題が生じたが、実行委員会のご協力を頂き改善され利用者に好評であった。

<備考:反省点等>

*レディース委員会設立6年目を向かえ、19年度は新しい事業を考案するよう努める。

*19年度は人事の見直しをし、新たな委員を加え、実動出来る委員を配置。

*各事業の詳細は報告書をご参照下さい。

◆医事・科学委員会

(委員長：上原一之 副：米山博巳・栗原茂勝)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
ドーピング検査	平成19年2月 平成19年3月	葉山 浜名湖	ドーピング検査員派遣
医療活動	平成18年5月 平成18年8月	野尻湖 和倉温泉	救護活動
ナショナルチーム携行薬手配	通年		アンチドーピング対策
アンチドーピング相談	通年		常用薬の可否、受診相談

◆オリンピック特別委員会 (委員長：河野博文)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
<p>オリンピック特別委員会は年度事業計画に基づき以下の事業を推進致しました。</p> <p>次世代を担う選手の育成・強化に関しては「競技力向上委員会」と連携を保って推進いたしました。</p> <p>2006年度の重点目標は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 北京五輪でのメダル獲得と複数種目の入賞 2. アジア大会(2006年12月カタール)のオリンピッククラス全種目金メダルの獲得 3. 選手が強化活動をスムーズに行える環境の整備と体制造り 4. JOCゴールドプランに基づく次世代を担う選手の育成・強化 5. 事業別予算・実績管理の徹底と効率的な資金計画・運用 			
<p>重点目標の100%実現は未達に終わりましたが、オリンピックの3年前として体制の整備は出来たと考えています。</p> <p>2007年はオリンピック前年として一層の体制整備、選手の活動環境の整備に取り組みカスカイスで開催されるオリンピック種目合同世界選手権大会で参加全種目オリンピック参加枠獲得を目指します。</p>			
<p>I. 国内強化合宿</p>			
(1) レーザー級ナショナル強化合宿	6月6日～6月11日	静岡県御前崎	本合宿にはレーザー級ナショナルチーム選手も自主練習会を実施、ISAFワールドユース代表選手も参加しトップ選手の技量を吸収いたしました。
(2) レーザー級ナショナル強化合宿	7月1日～6日	佐賀県唐津	
(3) レーザー級コーチ招聘合宿	8月8日～13日	静岡県御前崎	昨年に引き続きスウェーデンからアテネオリンピック6位のカーネルソン氏を招聘、9月済州島世界選手権大会参加選手の強化を行いました。
(4) 470級選手招聘合宿	10月14日～17日	神奈川県江ノ島	女子：ウクライナチーム Talan / Pakholchik 組を招聘しました。 (アトランク、シドニー、アテネ五輪の銅メダリスト)
(5) JISS (国立スポーツ科学センター) フィット合宿	3月5日～8日	JISS (国立スポーツ科学センター)	2005年からの継続事業である合宿を2007年ナショナルチーム選手36名を対象に実施 本合宿の目的はメディカル、フィットネス、スキル、メンタル、栄養の5つのカテゴリーにおいて、「トータルスポーツクリニック」(以下TSCと称す)測定、検査を行い競技者の心身の状態や資質を評価しより競技力向上のためのデータ蓄積、アドバイスを提供する事です。
<p>II. 競技会開催</p>			
(1) ISAFワールドユース2006 日本代表選手選考会	5月5日～7日	佐賀県唐津	競技力向上委員会と連携した次世代を担う選手の育成・強化事業
(2) 470ジュニアワールド西日本選考会	6月3日～4日	兵庫県西宮	々
(3) 々 東日本選考会	6月11日～12日	神奈川県葉山	々
(4) JSAFオリンピックウィーク	10月18日～22日	神奈川県江ノ島	オリンピック種目と合わせユース種目(420/FJ/レーザー/レーザーラジアル/シネパ-及びSR級)で大会を開催するが、10月は国体の時期や伊弉が近いことで参加が減少傾向今後、他大会日程を考慮し多くの参加者を集める工夫が必要。
(5) 2007年ナショナルチーム選考レース	2月1日～8日	神奈川県葉山	470級男子11艇、女子6艇、レーザー級9艇、ラジアル級6艇、RS:X級男子10艇、女子5艇の47艇、64名の選手が参加し開催いたしました。 (成績は別紙参照)
<p>III. 海外派遣</p> <p>以下の海外派遣事業を行いました。 (各大会の成績は別紙参照)</p>			
<p><ナショナルチーム選手></p>			
1. ヨーロッパ遠征	4月初旬～5月下旬	スペイン・マヨルカ島 フランス・イエール	各クラス、選手のレベルアップを目標に以下のヨーロッパ遠征を行いました。 1. プリマシマフィア杯 4月6日～4月13日 スペイン・マヨルカ島 参加艇 470級男子2、女子3、レーザー級4、ラジアル級2、 イングリッド級1 2. 任-対オリンピックウィーク 4月21日～4月28日 フランス・イエール 参加艇 470級男子3、女子3、レーザー級4、ラジアル級2、 イングリッド級1、RS:X級女子1、49er級1 3. ISAFセーリングゲーム 5月6日～5月20日 オーストリア ・Lake Neusiedl 参加艇 470級男子3、女子3、レーザー級4、ラジアル級2、 RS:X男子1、女子1
2. ISAFセーリングゲーム	5月6日～20日		
3. 種目別世界選手権大会	6月～9月		1. 49er級世界選手権大会 6月4日～11日 フランス・エクスルバン 2. イングリッド級世界選手権大会 6月25日～7月8日 フランス・ラロッシェル 3. レーザーラジアル世界選手権大会 7月30日～8月4日 米国・マリーナデルレイ 4. レーザー級世界選手権大会 9月5日～9月20日 韓国・済州島 5. 470級世界選手権大会 9月4日～9月13日 中国・日照 6. RS:X級世界選手権大会 9月20日～9月30日 イタリア・トルボレ 7. スター級世界選手権大会 9月27日～10月8日 アメリカ・

オリ特ランキングの判定			サンフランシスコ 種目別世界選手権大会の結果で種別・個人別ランキングを判定しました。ランキングにより2007年強化事業に於ける補助内容等が決定します。 <ランキング制度の目的> 【目的】⇒公示より抜粋 強化対象オリンピック艇種およびその他のオリンピック艇種の選手を対象に2006年度世界選手権大会(V.その他4.「世界選手権が開催されない艇種の取り扱い」を除く)の成績で2007年度事業における艇種別ランキング、個人ランキングを明確にし、それを基に2007年度NT数、強化費およびその他補助の算定基準とし、選手強化を図る事を目的とする。 本ランキング制度は、2008年世界選手権大会まで継続する。ただし係数等で問題があるとオリンピック特別委員会が判断した場合は変更する場合がある。(ランキング結果は別紙参照) 2008年オリンピッック競技開催地の中国・青島でオリンピッックテストイベントが開催され参加 参加種目： 470男子 2艇 松永・上野組、関・柳川組 470女子 2艇 田畑・栗田組、吉迫・大熊組 49er 2艇 石橋・牧野組、轟・高橋組 RSX男子 2艇 富澤、杉原 RSX女子 2艇 小菅、須長 イングリッド 1艇 重・堀内・江口組
4. オリンピックテストイベント	8月18日～31日	中国・青島	今年はいくつかのクラス2艇ずつ6クラス選手19名での参加となったが、2007年プレ五輪は各種目1艇の参加しか出来ず、日本からは9クラス15名になる予定。8月8日にオリンピックハーバーがオープンのため、7月後半からの現地入りで準備を進めていく予定 第15回アジア競技大会がカタール・ドーハで開催され8種目に選手12名、役員4名が参加 金1、銀4、銅1のメダルを獲得した。 参加種目：470級男女、レーザー級、420級男女、ミストラル級女子、OP級男女 オリンピック種目において全種目金メダル獲得の目標は達成出来なかったが参加全種目で6位以内入賞をしJOC目標は達成、一方、アジア諸国(特にシンガポール)はJOCからの一貫指導プログラムを充実させており、次世代を担う選手の育成・強化に本腰を入れる必要を痛感した大会であった。JOCもまずアジアで勝利する事を目標として掲げておりその方針に沿って次のアジア大会に臨む予定である。 「競技力向上委員会」と連携、次世代を担う選手の育成・強化を目的に海外派遣を行いました。 ISAFワールドユースは2012年ロンドンオリンピックセーリング競技開催予定地であるウエイマスで開催されました。 参加種目：420級男子、女子、レーザー級、レーザーラジアル級、RS:X級男子 トラベミュンデで開催された470級ジュニアワールド選手権大会に男子3艇を派遣しました。
5. 第15回アジア競技大会	12月1日～15日	カタール・ドーハ	ISAFワールドユースは2012年ロンドンオリンピックセーリング競技開催予定地であるウエイマスで開催されました。 参加種目：420級男子、女子、レーザー級、レーザーラジアル級、RS:X級男子 トラベミュンデで開催された470級ジュニアワールド選手権大会に男子3艇を派遣しました。
<ジュニア・ユース選手>			
1. ISAFワールドユース選手権大会	7月12日～21日	イギリス・ウエイマス	ISAFワールドユースは2012年ロンドンオリンピックセーリング競技開催予定地であるウエイマスで開催されました。 参加種目：420級男子、女子、レーザー級、レーザーラジアル級、RS:X級男子 トラベミュンデで開催された470級ジュニアワールド選手権大会に男子3艇を派遣しました。
2. 470級ジュニアワールド選手権大会	7月21日～30日	ドイツ・トラベミュンデ	トラベミュンデで開催された470級ジュニアワールド選手権大会に男子3艇を派遣しました。
IV. その他事業			
1. 上期選手・コーチ会議の開催	10月18日	山形県八幡ヶ原	JSAFオリンピックウィークに合わせ江ノ島婦人センターにおいて上期選手・コーチ会議を開催、4～9月の事業報告、下期および2007年度事業計画の概要説明を行いました。
2. 2007年種目別ナショナルチーム数の決定	10月18日		上記会議時に2006年世界選手権大会の成績を基に算出した2007年ナショナルチーム数を発表、HPに公示しました。
3. 北京オリンピック代表選手最終選考の公示	1月21日	JSAF理事会	北京オリンピックに本代表候補選手選考方法について1月21日JSAF理事会の承認を得てHPに公示しました。
4. スポンサー招待会の開催	2月3日	神奈川県葉山	2007年ナショナルチーム選考レース時に日頃から支援を頂いている協賛・支援各社の招待会を開催、選考レースを観戦頂き、終了後に懇親会を開催、継続した支援をお願いいたしました。
5. ドーピング検査	2月3日～4日	同上	医事・科学委員会と連携し、2006年ドーピング競技中検査をナショナルチーム選考レース参加選手を対象に12検体行ないました。
6. マスコミ懇親会の開催	2月26日	岸記念体育館	マスコミにセーリング競技をより深く理解いただく趣旨でメディア懇談会を開催しました。2007年度ナショナルチームの紹介、2007年度強化スケジュールおよびオリンピック代表選手選考等について説明しました。懇談会には30名近いマスコミが参加、在京ナショナルチーム選手も8名が出席、マスコミ各社からは好評をえました。
7. 青島事前調査・準備	3月28日～31日	中国・青島	2007年プレオリンピック、2008年本番の諸準備を目的に青島を訪問、練習場ハーバーの確保、村外役員の宿舎、JSAF現地本部候補場所の選定等の準備を行いました。

<備考:反省点等>
北京オリンピックに向けての委員会が発足して2年が経過、新しい試み、選手が強化活動に取り組む環境作り等はある程度進捗したと考えています。2007年度に入るとオリンピック本番までは約500日、カスカイスでのISAFオリンピック種目合同世界選手権大会で参加全種目枠取りを目指します。オリンピック本番の準備にも取り掛かっていますが、これもプレオリンピック終了時にはある程度の目安を付ける必要があると思います。トップ選手の強化体制はシステムも含めて構築出来つつありますが、課題は次世代を担う選手の育成・強化体制の確立であり、将来に渡って日本のセーリングが確固たる地位を保持するためには必要不可欠な事と考えています。「競技力向上委員会」との連携をより密にしてオリンピック強化と並行して推進する予定です。2007年後半にはナショナルトレセンも動き出す予定であり文部科学、JOCの支援を受けながら一貫指導システムを確固たるものにすることを痛感しています。

◆アメリカズカップ杯委員会 (委員長：山崎達光)

第32回アメリカズカップ挑戦艇決定シリーズ ルイ・ヴィトンカップの動向を観察。

防衛艇：アリング (SUI)

挑戦艇：エミレーツ・チームニュージーランド (NZL)

BMWオラクルレーシング (USA)

ルナ・ロッサチャレンジ (ITA)

デサフィオ・エスパニョール (ESP)

マスカルツオーネ (ITA)

ヴィクトリーチャレンジ (SWE)

チーム・シヨシヨロザ (RSA)

アリーヴァチャレンジ (FRA)

+ 39 チallenge (ITA)

ユナイテッドインターネット・チームジャーマニー (GER)

チャイナ・チーム

◆国体委員会 (委員長：昇隆夫 副：森信和)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. 第61回国民体育大会兵庫国体を開催	10月6日～9日	兵庫県 新西宮ヨットハーバー	・天皇杯：福岡県 皇后杯：山口県 大会日程の全種目の全60レースを実施する。
2. 秋田国体リハーサル大会を開催	9月29日～10日	秋田県男鹿市 船川港特設ヨットハーバー	・2006年全国日本セーリング選手権大会 ・高松宮妃賜杯第51回全日本実業団ヨット選手権大会 ・第8回全日本セーリングスピリッツ選手権大会
3. 秋田県、大分県の国体開催予定地の準備支援を実施		秋田県男鹿市 船川港特設YH 大分県北浜YH	・環境キャンペーンを実施 ・競技運営方法及び運営施設等の協議 ・実施要項の作成 ・ヨットハーバー増設整備について協議 ・実施要項の検討
4. 第67回岐阜国体(平成24年)開催地内定に係る 中央競技団体事前視察の実施 ・岐阜国体開催予定地再視察(三重県河芸)	11月6日	岐阜県河芸	・開催地内定に伴う岐阜県、地元県連との協議及び 会場地再検討に伴う再視察を実施
5. セーリングスピリッツ級の普及活動の実施 (1) 大会の開催 ・西日本スプリングレガッタ ・海陽セーリングカップ ・SS級関西選手権	3月18日～19日 7月22日～23日 8月5日～6日	岡山県牛窓YH 愛知県海陽YH 兵庫県新西宮YH	・水域による普及活動 ・水域による普及活動 ・兵庫国体開催に合わせ実施
(2) 安全対策			・浮力体を挿入したマストの完成及び販売開始
6. 国体について日体協と協議		日本体育協会	・平成19年秋田国体から少年男女にSS級の採用が決定されたことに 伴う実施要項の作成 ・平成20年大分国体から実施するブロック大会について日体協と協議
7. 国体セーリング競技研修会の開催	1月26日～27日	東京都夢の島	・兵庫県、秋田県、大分県、新潟県、千葉県、山口県の行政関係者及び 各県連と国体開催に向けた研修会を実施
8. 国体ウインドサーフィン級の 年度登録管理			・年度登録証の発行及び管理
9. 国体参加資格の審査			・第61回兵庫国体の選手・監督の参加資格について審査を実施

<備考:反省点等>

- ・国体セーリング競技研修会は平成15年度から継続して開催し、関係行政機関及び各県連には成果が多いにあり有効な会議である。
- ・国体改革に合わせ中学生の参加を日体協と協議を進め、ジュニア選手層の普及を図ることは今後のセーリング界では重要である。
- ・環境キャンペーンを国体及びリハーサル大会で実施し、環境にやさしいスポーツであることをPRしていく。
- ・セーリング競技を市民に身近に感じてもらうためにはTV撮影や見せるスポーツにしていかなければならない。

◆環境委員会

(委員長：岡田達雄 副：荒居達雄)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
JSAF環境キャンペーン	2006年度	20の大会	レース会場やイベント会場でJSAFエコフラッグと横断幕 (JOCのものを含む) を掲げ、帆走指示書には「海にゴミを捨てない」ことを明記し、環境を守ることの大切さを訴える。また、JSAF環境スポンサーロゴの入ったエコバッグを配布し、レース後に海洋浮遊物を回収することや、レジ袋として活用することを奨励している。
パールレース	7/20～23		JSAF外洋東海 都築勝利 日本シーホッパー協会_東島
第33回全日本自治体職員ヨット競技大会	8/25～27		自治体職員ヨット連盟 小宮 三雄
阿波踊りヨットレース	8月13日		徳島県 瀬川 洗城
北海道ジュニアヨット大会	2006.8.8		
第62回国体セーリング競技リハーサル大会	9/16～18		秋田県 加藤 則夫
全日本セーリング選手権大会			
高松宮妃記念杯第52回全日本実業団ヨット選手権大会			
第8回全日本セーリングスピリッツ級選手権大会			
第35回全日本ソリング級選手権大会	9/30～10/1		日本ソリング協会 山中 康弘
	2006.9.7		秋田県セーリング連盟 加藤則夫・佐藤利秋
第59回全日本ソイブ級ヨット選手権大会	9/27～10/1		岡山県セーリング連盟
第71回全日本学生ヨット選手権大会	2011/1/5		福岡県セーリング連盟 岩瀬 広志
第30回全日本トナー級選手権大会	2011/4/5		日本トナー協会 池田 光司
第52回全日本シーホース級ヨット選手権大会	10/1～9		日本シーホース協会 外尾 竜一
第43回全日本シーホース級ヨット女子選手権大会			
全日本選手権	10/28～29		日本テザー協会 赤井 寛
第39回全日本国際モス級選手権大会	10/7～9		日本モス協会 小倉 正明
IMCO全日本	10/28～29		IMCO全日本実行委員会 浜田 宏弥
第35回全日本470級ヨット選手権大会	11/22-26		日本470協会 信時 裕
第20回兼全日本女子470級ヨット選手権大会			
J24全日本選手権大会	10/28-29、 11/2、11/3-5		和歌山県セーリング連盟 中村
ファイブボール級全日本選手権大会	11/3～5		ファイブボール協会 鳥羽田 剛史
フォーミュラライトシーフィンクラス全日本選手権大会	2012/2/3		日本ウインドサーフィン連盟 浜田宏弥・千葉貴生
	2006.11.17		OP協会 荒川 渡
全日本レーザー	11/22-23		佐賀県ヨットハーバー 森洋子

<備考:反省点等>

環境委員会としては、環境キャンペーンの大会に全て参加できないので、大会主催者の自発的な活動と報告に依存している。

◆普及委員会

(委員長：水谷益彦)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
日本財団助成事業の実施			
ファミリーレース	7月8・9日	山口県光市	23艇95人
	7月29・30日	静岡県清水市	41艇280人
	7月29・30日	福岡県福岡市小戸	81艇225人
	8月12・13日	愛知県蒲郡市海陽	70艇114人
	8月19・20日	石川県七尾市	25艇205人
	9月9・10日	大阪府貝塚市二色	15艇225人

ジュニアセーリング体験	10月14・15日	滋賀県大津市	40艇160人
	10月21・22日	佐賀県唐津市	55艇133人
	7月8・9日	千葉県稲毛	23艇113人
	7月16・17日	茨城県土浦市	14艇150人
	7月22・23日	長崎県長与町	29艇155人
障害者セーリング体験	7月29・30日	宮城県石巻市	30艇68人
	7月1・2日	富山県射水市海竜	20艇180人
教職員指導者養成講習会	8月5・6日	三重県津市伊勢湾海洋SC	26艇60人
	8月26・27日	広島県広島市観音	26艇200人
	5月27・28日	高知県香南氏夜須	7艇33人
	7月16・17日	北海道室蘭市	17艇65人
全国ヨットハーバー・マリーナ 指定管理者連絡協議会	2019年2月12日	東京夢の島マリーナ	全国より29名参加、今後も継続予定

<備考:反省点等>

当初計画よりレディスセーリング体験がジュニアに変更、若干基準、計画を下回る参加人員のところも

あったが、殆ど基準をクリアし、内容も豊富であり、充実していた。

近年、セーリング体験の実施希望が増加し、計画数の2～3倍の申請がある。現在のところ、採択基準に従い、実施能力を見極め採択しているが、規模の小さいところが採択できず、又、2年続けて採択するのが困難であり、継続性、定着性で若干問題がある。

ファミリーレースについても2倍程度の申請があり、参加予定人員の少ないところほど、普及の必要があるという現状を認識し、考慮が必要である。

全国ヨットハーバー・マリーナ・指定管理者連絡協議会を開催、指定管理者制度の問題点を協議、今後指定管理者を目指す団体も数多く参加した。

◆関係組織協力委員会 (委員長:大庭秀夫 副:前田多満枝)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
国体日程変更に伴うJSAF加盟団体 日程の調整	通年		FJ協会のあり方。今後の活動についての話し合いをする。
	10月6日～9日	兵庫県	兵庫のじぎく国体会場において、今後国体開催予定の県連役員と日程
	通年	神奈川/東京/他	確認と各クラスとの調整をする。 大分県で行なわれるリハーサル国体と470級全日本、NT選考レース、 実業団全日本の機関が重なり、各団体との調整を行なう。 その他、各水域の学生選手権(全日本予選会)の開催日程の調整を 行なう。次年度においてはリハーサル国体も含め、各団体に早めに 周知し予選会からのトラブルを避ける。
	11月	東京	470級全日本選手権開催時期についての話し合いを行なう。 日程の変更をし、今後の日程についても速めに対応する事に合意した。
	3月	横浜	今後のFJ教会について話し合いを行なう。FJ協会としては主に高体連 だけの大会になりこのままだと衰退してしまう。クラス協会として 高体連以外の大会の開催を考えていかなければいけないとの結論。 会員登録についての問題が多く指摘される。発行に時間がかかりすぎ ることや、登録方法がよく分からないという意見が多い。 特に、JSAFに大会開催地にどこに確認したらよいか分からない、選手 は登録手続きしたが会員書が届かない事例が多く、主催者が確認 するにしても手間が掛かりすぎるの意見が多い。海難事故で保険等の 問題も関係するので、空白期間は絶対ないほうが良い。
	通年	全国	

<備考:反省点等>

会員登録システムをもう少し改善し、登録後速やかに会員証の発行ができるように改善するべきである。会員の登録状況の閲覧が簡単にできるようなシステムを考えるべきである。今年も海難事故が発生し運よく人命には問題は及ばなかったが早急の対応が必要。

◆IT対策委員会

(委員長：前田彰一 副：鈴木保夫)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
会員管理システムの改定	2006年4月1日	-	H17年度末に検討した検索項目を追加するシステム改定を発注
会員管理システム機能追加を通知	2007年5月18日	-	会員管理システムの機能追加を加盟団体の担当者あてに送信
2006年度メンバーシール発送	6月	-	2006年度メンバーシールをJ-Sailingに同封して発送
第24回 拡大 IT対策委員会	2007年8月17日	JSAF	武村事務局長も参加してメンバー登録事務について打合せ
第25回 IT対策委員会	2007年1月19日	JSAF	加盟団体担当者からの意見も踏まえ改良点について打合せ
会員管理システムの改定見積	2月	-	上記委員会の議論をベースに見積を依頼
第26回 IT対策委員会	2007年3月26日	JSAF	朝田耕平氏を交え、より具体的なシステム改定について打合せ

<備考:反省点等>

1. メンバー登録管理システムを立ち上げ2年目になる。最初の1年間は試行錯誤しながら利用し、入金済みか否かで分類するなどの検索機能を追加する改定を行った。
2. 永久メンバーカードの発行を行ってきたが、2年目にあたりカードに「2006メンバー」のシールをはることで、入金済みすなわち2006年度のメンバーであることを証明する方法を採用した。
3. 現状の問題点に対する対策として、加盟団体入金とJSAF本部入金とのタイムラグの解消、レース委員会・ルール委員会だけでなく国体委員会や外洋統括委員会にも全体を見れる担当者を拡大、をすることにした。なお、シール廃止の議論もしたが、現在70-80%程度の利用率でこれが90%を超えるようになれば廃止も検討することになった。

◆会員増強委員会

(委員長：伊藤宏 副：野口隆司)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
会員登録キャンペーン	4月 1月		予算実行を凍結したため、実施を見送った。 平成19年度分のキャンペーン用グッズの購入も同上の理由から見送った。
普及活動支援事業	1月		加盟団体が行う会員増強を目的とした普及活動を支援するため、助成金を給付するシステムの構築を提案した。

<備考:反省点等>

会員増強は、JSAFにとって重要な課題であるが、財政的に苦しいこともあり、委員会の活動も不十分であった。

JSAFは、中央競技団体であるため、競技力の向上を図ることはもちろんであるが、将来の担い手を育成するための普及活動に対しても競技力向上と同等以上のリソースを配分することが肝要と思われる。

こうした条件を整えた上で、各加盟団体が、日頃どのような活動を行っているのか、また活動の推進に際して、何が障害となっているのか等等情報を収集・分析し、その結果に基づいて新たな施策を展開することが必要である。

◆B&G海洋センター支援チーム

(委員長：占部雄三)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
プールでOPヨット体験会	9月24日(日)	壘蘭市B&G海洋センター	今年度10海洋センターに実施した内容は参加者は必ずしも多くはなかったが、各センターの反応は非常に好評だった。 19年度は3箇所を重点地域としてプールで実施した後に、近辺のJSAF県連とジュニアクラブが海でのヨット練習をフォロー出来るよう計画を進める。第1回は7月24日大阪市プールで実施後周辺ジュニアクラブが協力する計画で打ちあわせを進めている
	9月30日(土)	互理町B&G海洋センター	
	9月10日(日)	行方市B&G海洋センター	
	10月14日(土)	佐渡市B&G海洋センター	
	11月4日(土)	一色町B&G海洋センター	
	10月29日(日)	高島市B&G海洋センター	
	10月7日(土)	周防大島町B&G海洋センター	
	9月17・18日	大三島B&G海洋センター	
	9月17日(日)	飯塚市穂波B&G海洋センター	
	8月5日(土)	鹿島市串良B&G海洋センター	

◆外洋特別委員会 (委員長：古川保夫)

事業内容 (専門委員会名)	時期	担当者	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
外洋計測・技術委員会	年間	林	IRCレーティング導入に関する学識支援と組織監修等をおこなった。 ハンディキャップの1つとしてIRCレーティングを導入した。
外洋安全委員会	年間	浪川	加盟団体と連携を図り、特別規定講習会などを主導した。
ORC委員会	年間	小林	コンGRESSとして世界年次総会に出席し、情勢把握に努めた。
外洋財務・会計委員会	年間	鈴木(保)	各委員会の予算運用を指導・監修した。外洋計測問題の解決を図った。
外洋法制委員会	年間	渡辺	JCIとの友好的関係を維持しつつ、情報収集、改善提案をおこなった。
外洋組織・構造改革委員会	年間	児玉	外洋が抱える諸問題の把握に努め、次年度への素地作りに注力した。
外洋ルール委員会	年間	大村	加盟団体のレースルール等の実施運用について指導・監修をおこなった。
外洋公式レース委員会	年間	稲葉	新しいジャパンカップ開催規定作りに着手した。
外洋海事思想普及委員会	年間	都築	全国のセーリング活動の活性化・連帯を目指すための企画を提示した。
外洋新規事業委員会	年間	平賀	ボートショウ出展。頒布品の現状・未来に対する意見交換をおこなった。
外洋国際化委員会	年間	鈴木(一)	本部国際委員会との融合をはかり、次年度への活動環境作りに努めた。
外洋セイルメジャラー委員会	年間	八木	全国のセイルメジャラーとの連帯を図り、技術向上・研究に腐心した。
外洋通信委員会	年間	足立	外洋艇の開局実態の把握と各地上無線局の運用実態を調査・監修した。

◆財務委員会 (委員長：石橋國雄)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
① JSAFの財務強化			収支バランスの不徹底による財務内容の悪化を招いていた
② 北京オリンピック・選手強化 募金活動			オリンピック特別委員会(マネージメント委員会)との連携 同委員会の会計処理の効率化により、オリ特会計内容が明確で 収支バランスも取れた
③ セーリングの裾野拡大と 会員募集による財務の充実			会員増強委員会との打合せ セーリング活動の拠点での会員増強運動<次年度へも継続>
<備考:反省点等> ・会員に対するJSAFのサービスと、会員からJSAFへの期待のギャップをどのように埋めるか ・会員の増強が、財務体質の本質であり基本であるべきである。他の広告や賛助金等は補助的なものであるべき ◎上記の問題の解決が出来なかった ◎次年度も基本的な考えとして継続する			

◆最高審判委員会 (事務局長：川北達也)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
2005年度全日本OP選手権69条審議	4月	東京	報告書およびヒアリングに基づき、規則69有無の事実認定および裁定案をJSAF理事会に提出
国体香川県予選における上告審議	7月	東京	上告に基づき、プロテスト委員会および非抗議艇からの意見書が提出され、3者申告情報に基づき審議したが、事実認定および審問の手順に不足有。再審を指示。再審結果に基づき審議し、上告棄却を裁決。
JAPAN Cupにおける上告審議	11月	東京	上告に基づき、プロテスト委員会および非抗議艇からの意見書が提出され、3者申告情報に基づき審議し、事実認定および上告棄却を裁定。ただし、関連にISAFへの照会が必要な項目があり、委員から照会実施。ISAFからの回答に基づき、関連項目についての指示を追加し、最終裁決。
2006年度全日本OP選手権上告審議	11月	東京	上告に基づき、プロテスト委員会からの意見書が提出され、3者申告情報に基づき審議したが、事実認定および審問の手順に不足有。再審を指示。再審結果に基づき審議し、上告棄却を裁決。

◆トーンン裁定委員会 (委員長：棚橋善克 副：秋元和子)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
討議すべき提訴はなかった。	通年		